平成 27 年度海外短期研修報告書
タイ夏期英語研修（平成 27 年 8 月 24 日～9 月 18 日）

都市教養学部都市教養学科法学系　2 年 守安　美咲

＊タイ夏期英語研修を通して＊

タイ夏期英語研修の大きな一つの目的は、英語力を向上させることであった。しかし、このプログラムでは、英語力だけではなくタイの文化や環境、人々の考え方の違いなど私が期待していなかったことをたくさん学ぶことができた。このような貴重な経験を多くの皆さんにして頂きたいと思うので、今回は①英語の授業で学んだこと②現地学生との交流③ホームステイ④一か月滞在して感じたこと、に分けて記述したいと思う。

①　英語の授業で学んだこと

まず前置きしておきたいのは、英語の先生は第一言語が英語圏の方、あるいは欧州の方であるということだ。私たちが、日本で受けているネイティブの先生と変わりはないので安心して頂きたい。

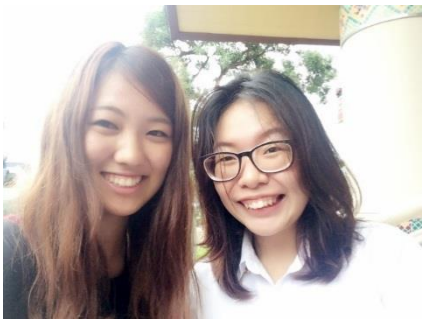
今回の英語の授業では、コミュニケーションを重視してトーキング能力を向上させる授業と英語でのプレゼンテーション技術を教えてもらう授業、現地の学生が履修している英語の授業であった。私が特によかったと思えたのは、プレゼンテーションの授業である。この授業では、一回目の授業から私たちにクラスの前で自己紹介を 1 分間行う、というように毎回身近なトピックで集団の前で発表する実践する機会が多くあった。皆の前で発表することで、英語を話す緊張感が薄れ、また実際に話したり他人のスピーチを聴いたりすることで自分の英語力の課題がみえてくる良いきっかけとなった。また、プレゼンに必要な重要なフレーズや手法を具体的に教えてくれる。今回の一か月間という短い期間で、10 分のプレゼンを作成するというゴールが与えられていただけに、一つ一つの授業が濃く、実質的な英語力の向上に繋がった。

プレゼンを終えて、先生とのショット→

②　現地学生との交流

現地学生との交流での経験が私の中で最も印象深いものとなった。現地学生と交流する機会は主にバディ、現地学生が履修している英語の授業であった。もちろんバディや英語の授業で出会った友達との時間も楽しかったが、一番仲良くなったのは道端で出会った現地学生である。私が思いきって話しかけたことがきっかけで、一か月の間何回かその子と遊ぶことができた。偶然にも相手も同い年であったため、さらに意気投合することができた。二人でコミュニケーションをとる機会ができたことによって、お互いの文化の違いを話すことができた。話していて驚いたことは、タイの大学では各学部で縦の繋がりが強いことであった。日本の大学では、サークルや部活に属さない限り上下関係はあまり見受けられない。しかし、タイの大学では各学部で団結する行事が多くあり、そのため上下関係が厳しい学部もあるという。彼女と夕食を食べていると、応援団のように声を発する団体がいたので、何か聞いてみたところ、法学部の先輩が後輩にお説教をしているのだ、と答えた。タイのすべての法学部に言えることかはわからないが、少なくともチェンマイ大学の法学部は圧倒的に男性が多く、法学部は男らしいというイメージがあるため特に上下関係が厳しいのだという。このように、同世代の子と話すことで、実際に行ってみないとわからない身近な文化の違いを知ることができた。

また、英語でコミュニケーションをとることで同じく英語が第二か国語であるタイの学生の能力も知ることができた。一人一人、英語能力は様々で第一言語が英語の人と話す時のプレッシャーなく気楽に話せたことはとても良い経験であった。



↑タイのバディと

↑道端であって仲良くなった子

③　ホームステイ

ホームステイではタイの家庭環境、教育を学ぶことができた。今回私が泊めて頂いたホストペアレンツはとても温かい人でチェンマイの人々の優しさを非常に痛感した。またホストファーザーからはタイの国王がなぜ国民から尊敬されているか、歴史と共に教えてくれた。５歳のホストシスターはとても可愛く、でもシャイであまり話せなかった。少しは話してくれた時にはとてもきれいな英語の発音で喋っており、タイの英語教育には驚かされた。（彼女は英会話学校に通っていたため、タイのすべての子にいえることではないと思う。）それと同時に、私以外と話している時はタイ語であるため言語の壁を感じた。中学校からなんとなくでも学んできた英語は自分の力になっていると感じ、今まで学ぶことのなかったタイ語を一から勉強することの難しさを痛感した。それでも、簡単なあいさつや数字、日本、などの単語を覚えて、それが聞き取れたときには何とも言えない嬉しさを感じた。

↑ホームステイの家族と

↑北部の郷土料理で朝食

④　一か月間滞在して感じたこと

一か月間滞在して帰国後すぐに、またチェンマイに行きたい！と思った。一か月生活してみるとわかるのだが、とにかくチェンマイの人々はどこの人も親切で暖かい。彼らは、自分の家族のように心配してくれて気遣ってくれる。チェンマイの緩やかな時間の流れも彼らの性格を形成している要因の一つであると思う。日本のように最先端技術や安全な環境であるとはいえないが、彼らは彼ら自身の幸せな過ごし方を知っている。私はこの一か月間で、イライラしている人や怒っている人を見なかった。また同時に私自身もいらいらすることはなかった。ある友達から「美咲はいつも笑っているよね。」と言われて驚いた。タイに行く前は、日々の忙しさに余裕がなくてまわりに心配されることがあったが、タイでは素直に楽しくて笑えていたのだと思う。今回の研修で、日本の自分を忘れて、ゆっくりとした時間の中で過ごすことで自分をもう一度見つめなおすことができた。もし、海外へ行ってみたいという気持ちがあるならば、ぜひタイへ行くことをお勧めする。これから大切だと思える仲間や人々に出会えるチャンスがそこにはたくさん溢れている。